

内申点の話(評定について)

あまり周知されていないようですが高校入試で”超”重要な話です。是非一読して下さい。
内申点は評定、または評定点とも言われます。その内申点について、なるべく簡潔にお話いたします。

まず、**全ての高校入試の合否判定において、高校側は入試当日までに内申点(評定)により、受験者に順位をつけ、およその合格者を決定してしまう**ということです。※(「3月〇〇日・よし、今日は入試日だ。頑張ろう。→しかし、すでに合格候補者は決まっている!？」)

例えば今年度の公立後期入試です。

2月12~17日(出願期間)に県内の各中学校から県内各高校(志望校)に調査書(内申点記載)が送られます。後期入試日は3月4・5日です。それまでの約3週間、高校側は、**県内外からの当校の受験者に、内申点による順位をつけます**。

つまり、入試当日には、**受験者は順位が決められている**のです。

熊本県の後期入試は内申点及び学力点の両方を満たしている者を合格者とします。例えば、定員40名の学科ならば、**内申点と学力点の両方で順位40位以内の者が合格者**です。出願者が100名いて、内申点の順位で、41位以下になると厳しくなります。

このように、**受験当日までに、およその合格者が決まっています**。

※ **熊本県では内申点は中1から中3の12月までが公立入試の査定範囲**です。中1から入試は始まっています。**中3の内申点は2倍~3倍の評価があります**。

次に、**内申点は公立後期入試だけでなく全ての高校入試の選考材料**になるということです。

※ 5科目筆記試験はないことがあります。

前期入試は学力試験がほとんどありません。※例えば、面接+調査書、面接+実技+調査書、面接+作文+調査書等。

こちらも入試当日(2月3日)までに高校側に調査書(内申点)が送られて(出願期間は1月21日~24日)、送られてきた高校側では**順位づけが行われます**。

学力試験がない分、内申点の合否への影響はさらに大きいと言えます。

私立高校に至っては、3科目受験校、5科目受験校などあり、公立入試同様、試験当日までに受験校に送られる**調査書(内申点)は、必ず選考材料**になります。また、「**中3の内申点のみ合否査定**」や「**内申点〇〇点以上で95%の合格**」など、内申点による独特な選考もあります。

上記のように内申点は、**高校合格へ「とてつもなく重要な要素」**なのです。

そして、その内申点を決定する**最も重要な要素は「定期テストの結果」**です。「定期テスト」(中間、期末テスト)は内申点を定めるためのテストと言っても過言ではありません。

当塾では、**内申点を重く考えています**。所属中学校の進度を考慮して、基礎学力の定着と定期テスト対策をコツコツコツコツやっています。そしてその積み重ねが内申点のみならず、いつのまにか「**地力**」となり、入試当日の筆記試験でも、大いに活躍してくれるはずです。